

第57回 大阪母性衛生学会 学術集会・研修会プログラム

会 長 古山 将康（大阪市立大学大学院医学研究科 女性生涯医学 教授）
学術集会長 田中 春美（地方独立行政法人 市立東大阪医療センター 副院長）

<< 研修会 >>

日 時：平成30年12月16日（日）9：55～12：00

場 所：〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部 学舎 4F 大講義室

テーマ：「いのちの文化人類学」

座 長：遠藤 誠之 先生（大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学講座 講師）

演 者：「周産期における倫理的課題の背景を考える」

波平 恵美子 先生（お茶の水女子大学 名誉教授）

◆日本専門医機構共通講習単位【医療倫理】（2単位）交付予定

ご参加の先生は「e医学会カード」をご持参ください。参加登録は退室時に行います。

◆ご希望の方には、CLOCMiPレベルⅢ認証講習会【ステップアップ研修：倫理に関連した研修】

の修了証を発行します。メールタイトルに「研修会受講修了証希望」と明記の上、お名前・ご所属・助産師免許番号を学会事務局（bosei-osaka@med.osaka-cu.ac.jp）までお送り下さい。12月7日（金）締切

<< 学術集会 >>

日 時：平成30年12月16日（日）13：20～17：05

場 所：大阪市立大学医学部 学舎 4F 大講義室

参加費：2,000円（学生1,000円）

※平成30年度大阪母性衛生学会に未入会の方は、年会費1,000円（学生500円）を別途申受けます。

◆日産婦学会単位（10点）・日本専門医機構の学術集会参加単位（2単位）交付予定

ご参加の先生は「e医学会カード」をご持参ください。

◆ご希望の方には、「学術集会参加証明書」を発行します。CLOCMiPレベルⅢ認証申請等にご活用下さい。

メールタイトルに「学術集会参加証明書希望」と明記の上、お名前・ご所属を学会事務局（bosei-osaka@med.osaka-cu.ac.jp）までお送り下さい。12月7日（金）締切

後援：大阪産婦人科医会、大阪府看護協会、大阪府助産師会、OGCS看護師・助産師会

< 会場案内図 >



学舎地下1階入口はこちら



※学舎1階入口は閉鎖しておりますので、地下1階入口よりお入りください。

医学部学舎（医学科） 〒545-8585 大阪府大阪市阿倍野区旭町 1-4-3

◆電車によるアクセス◆

JR・地下鉄「天王寺駅」、近鉄「大阪阿部野橋駅」より西へ徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい。

Time Schedule

	時刻	会場(4階大講義室)
研修会	9:55~10:00	オリエンテーション
	10:00~10:05	会長挨拶
	10:05~12:00	研修会
昼休憩	12:00~13:20	昼休憩
学術集会	13:20~13:30	学術集会長挨拶・オリエンテーション
	13:30~14:25	第1群(7題)
	14:25~15:15	第2群(6題)
	15:15~16:10	第3群(7題)
	16:10~17:00	第4群(6題)
	17:00~17:05	閉会挨拶

<学術集会>

学術集会長：田中 春美（地方独立行政法人 市立東大阪医療センター 副院長）

大講義室

○が発表者

第一群（7題）13:30~14:25

座長：田中 恵子（千里金蘭大学 看護学部看護学科）

1. 看護学生と一般大学生の性感染症に対するリスク知覚の認識の違いについて

○林奈穂¹⁾・磯上真奈¹⁾・吉田芽生¹⁾・一ノ瀬知香¹⁾・小久保萌子¹⁾・大鼓石美奈¹⁾
土生田真彩¹⁾・丸本玲衣香¹⁾・菅野愛子²⁾・秋田浩子²⁾・岩原昭彦³⁾
(ベルランド看護助産大学校助産学科 26 回生¹⁾・ベルランド看護助産大学校²⁾
京都女子大学³⁾)

2. 子宮頸がん検診に対する学生の受診行動意識調査ーポジティブヘルスに関する個人的素因と受診意思との関連性についてー

○青木由奈¹⁾・岸本晶愛¹⁾・藤澤珠紀¹⁾・大野友紀¹⁾・細藤真祐子¹⁾・仲田涼乃¹⁾・見尾二葉¹⁾
見木千恵美¹⁾・門雀由加子²⁾・秋田浩子²⁾・岩原昭彦³⁾
(ベルランド看護助産大学校助産学科 26 回生¹⁾・ベルランド看護助産大学校²⁾
京都女子大学³⁾)

3. 女子中高生が受けた初経教育の実態

○福馬昌未¹⁾・岡島茅亜実¹⁾・河村沙弥香¹⁾・菊地美由紀¹⁾・坂井桃子¹⁾・島遥香¹⁾・由比美帆¹⁾
小笹幸子²⁾ (聖バルナバ助産師学院100回生¹⁾・聖バルナバ助産師学院²⁾)

4. 食育が青年期の食生活に及ぼす影響

○相澤悠貴¹⁾・井田亜沙美²⁾・和家安佑¹⁾・猪股健太郎³⁾
(近畿大学医学部附属病院¹⁾・近畿大学医学部奈良病院²⁾・関西学院大学理工学部³⁾)

5. 「看護の統合と実践」実習に関する文献検討ー第4次カリキュラム適用後の学生の学びからー

○堀陽子¹⁾・上山直美¹⁾・堀川真知子²⁾
(宝塚大学看護学部生育看護学講座母性看護学分野¹⁾・南大阪看護専門学校看護専門課程看護学科²⁾)

6. 初産婦の胎児への関心度と関連因子についての研究

○岡野あすか¹⁾・川村恭子¹⁾・谷口夕美絵¹⁾・玉上麻美²⁾・和木明日香²⁾
(大阪市立大学大学院看護学研究科前期博士課程¹⁾・大阪市立大学大学院看護学研究科²⁾)

7. 育児技術の経験による母性意識の変化

○宋真里¹⁾・山本彩夏²⁾・猪股健太郎³⁾
(地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター¹⁾・神戸大学医学部附属病院²⁾・関西学院大学理工学部³⁾)

第二群 (6題) 14:25~15:15

座長：徳永 明美 (医療法人 竹村医学研究会(財団) 小阪産病院)

8. A大学病院産科における産前教育の見直し

○林侑奈・金原光咲・登尾麻衣・英都貴子 (大阪医科大学附属病院 看護部)

9. 妊娠中の食嗜好、嗅覚の変化

○水戸遥香¹⁾・石田美穂¹⁾・坂井愛実¹⁾・高杉光¹⁾・西口文菜¹⁾・吉川沙織¹⁾・小笹幸子²⁾
(聖バルナバ助産師学院100回生¹⁾・聖バルナバ助産師学院²⁾)

10. 母子健康手帳の「妊婦自身の記録」の活用

○藤井弥々絵¹⁾・岡前里沙¹⁾・串田知奈美¹⁾・阪下文音¹⁾・白濱千聖¹⁾・三宅耀²⁾・室谷美規¹⁾
小笹幸子²⁾ (聖バルナバ助産師学院100回生¹⁾・聖バルナバ助産師学院²⁾)

11. 聴覚障がいを持つ若年初産婦に対して継続した看護を行って

○田中美紗・廣瀬美喜子・安田弘美・山本留美 (兵庫県立柏原病院 看護部)

12. 女子学生における出産のイメージと社会的背景の関係性について

○和多田美穂¹⁾・中根麻衣¹⁾・砂原麻衣¹⁾・清野綾香¹⁾・谷川 美憂¹⁾・中園捺希¹⁾
野崎はるか¹⁾・安井彩乃¹⁾・村田梨央¹⁾・宮下宏美²⁾・秋田浩子²⁾・岩原昭彦³⁾
(ベルランド看護助産大学校助産学科26回生¹⁾・ベルランド看護助産大学校²⁾
京都女子大学³⁾)

13. 大阪府下の出生前訪問の実態調査

○藤岡果林・加藤美里・千葉貴子・深町留美子・廉田千里・酒井めぐみ・田中小百合
北川美千代・春名雅子・光木悦子 (社会福祉法人 石井記念愛染園附属 愛染橋病院)

第三群（7題）15：15～16：10

座長：秋田 浩子（ベルランド看護助産大学校 助産学科）

14. 母乳栄養を希望した女性が継続できなかった要因～経時的変化に注目して～
○津口萌恵・瀬川文穂・英美帆・中居由美子（畿央大学助産学専攻科）
15. 1か月健診時の完全母乳率を低下させる要因の検討
○谷尾敬・河副みゆき（地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立十三市民病院）
16. 当院における黄疸治療中の母乳育児支援について
○西秋津・土居暁・今井明子・谷口武（医療法人 定生会 谷口病院）
17. 助産師による産後健診開始に関する実践報告
○中間万里代・松浦和枝・柴田綾子・高尾恭子・丸尾伸之（淀川キリスト教病院）
18. 産後3日のエジンバラ産後うつ病自己評価票の有効性についての検討
○寺本智子・吉岡正恵・江山佳奈・飯田優・北浦久代
（公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院 産科病棟）
19. 産後ケアエキスパート助産師育成事業 活動報告
○西村美津子・川上好美・石田美佳子・伊藤雅子・岩島貴久美・川寄有紀・濱田かよ子
宮川祐三子・吉田道子・保元明子（大阪府助産師会認定講習会担当委員会）
20. 子供の成長記録のSNSでの共有についての意識
清水安澄¹⁾・曾利萌々子¹⁾・北村文音²⁾・猪股健太郎³⁾
（近畿大学医学部附属病院¹⁾・医療法人社団愛育会 上尾中央総合病院²⁾・関西学院大学
理工学部³⁾）

第四群（6題）16：10～17：00

座長：今村 美生（近畿大学医学部附属病院）

21. 常位胎盤早期剥離を患者自身が自覚し早期対応できた一例
○長谷川朋香・宮越咲江・英都貴子（大阪医科大学附属病院 看護部）
22. 分娩時異常出血量の要因とその関連についての検討
○田上彩子・藤本里奈・安達美樹子・金英仙・竹村秀雄
（医療法人 竹村医学研究会(財団) 小阪産病院）
23. 院内心停止事例を経験して ～シミュレーションの重要性～
○川崎有香・谷口武（医療法人 定生会 谷口病院）
24. 児童虐待に影響を及ぼす母親と子どもの特性や愛着との関連性についての文献検討
～妊娠期から産褥期にかけての予防的介入のあり方～
○田中来実・建石一帆・中本沙紀・戸田千枝（畿央大学助産学専攻科）
25. 職権一時保護における院内システムの構築を目指して
○中山恵穂・南部真央・英都貴子・久下亜希子・宮田郁（大阪医科大学附属病院 看護部）
26. グリーフケアを受けた母親に電話訪問が及ぼす影響と今後の課題
○柳百合子・永安洋子・江山佳奈（公立大学法人 大阪市立大学医学部附属病院 産科病棟）

～ 企業展示 ～

大衛株式会社

バイエル薬品株式会社

(順不同)